

第3学年保健体育科学習指導案

日 時 平成29年6月12日(月)

場 所 池田中学校 体育館1F

学 級 3年5,6組 男子(33名)

授業者 岩田 浩明

1 単元名 武道(剣道)

(1) 単元について

〈運動の側面〉

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

武道の単元にある「剣道」は、竹刀を使って、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「有効打突」を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。1、2年生では、「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて攻防を展開できるようにする」ことが大切である。3年生では、1、2年で学習した内容を「試合」で発揮できるようにし、「試合の中で相手の動きに応じて打突できるようにする」ことを大切にし、毎時間試合を行うようにする。

「相手の動きに応じた基本動作」については、相手の動きに応じて行う構えと体さばき、基本打突の仕方と受け方を指導した。具体的には、構えのもととなる自然体、基本となる中段の構え、相手の動きに応じて攻撃や防御の間を保つための足さばきである。また、基本打突の仕方と受け方は、正面打ちとその受け方、胴(右)の打ちとその受け方、小手(右)に打ちとその受け方である。

「基本となる技」とは、しかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技を指導した。具体的には、しかけ技の基本となる技は、「小手一面、面一胴」などの二段の技や引き面や引き胴などの引き技を行う。また、応じ技の基本となる技は、「面抜き胴や小手抜き面」などの抜き技である。

「打ったり受けたりするなどの攻防を展開する」については、約束稽古や互角稽古で相手の動きに応じた基本動作を行いながら、しかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技を用いて、打ったり受けたりする攻防を展開する。

剣道が嫌いになる要素として「きつい、臭い、痛い」がある。「きつい」に対しては、技能習熟の程度に合わせて適切な稽古内容、時間、反復稽古の回数などを考えていきたい。「臭い」に対しては、防具等の管理に注意していきたい。「痛い」に対しては、「たたく」ではなく、「打つ」ことへの理解や竹刀さばきについて実践を通して理解させていきたい。

(2) 集団の特性

武道は、「積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにすること」が大切である。

「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること」とは、武道は、相手と直接的に攻防するという特徴があるので、相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組もうとすることを示している。そのため、自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るといった考え方があることを理解し、取り組めるようにしたい。

「分担した役割を果たそうとすること」とは、稽古やごく簡単な試合を行う際に、防具や用具の準備や後片付け、審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすることである。

剣道には、「礼に始まり、礼に終わる」という言葉がある。打つためには、そこに打たせてくれる相手がいるからこそ、初めて成り立つ。そうすると、「打たせてくれた」という思いが心の中に芽生えてくる。そこから、「ありがとう」という気持ちが出てくる。だから、頭を下げ、相手に感謝する気持ちを大切にしていきたい。

また、リーダー、PO、MO、体操、記録、用具係に分かれ、役割活動を行う。一人一役があるので、分担した役割をしっかりと果たして社会生活を過ごす上での必要な責任感を育てることもつなげていきたい。

生徒によっては、「やりたくない」「めんどくさい」と思って活動していることもあるので、仲間と共に活動していく中で、「ゆっくりできる」から「速く正確に打ち込める」ようになった喜び、教え合いによってできたときの喜び、できたときに仲間が喜んでくれたときのうれしさを味わい、さらにお互いが高め合えるようにしていきたいと考える。

2 生徒の実態

元気で活発な生徒が多い。また、体を動かすことが好きで、意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、自分は頑張ろうとするが、「仲間の姿から学ぼう、仲間のためにアドバイスしよう」などの意識が少ないように感じる。

この学級は剣道経験者が1名のみであり、ほとんどが中学校の授業のみである。また、けがや不登校の生徒もいるため、教え合いをしながら技能の上達に繋げることが求められる。

剣道の授業を行う前に生徒にアンケート調査を行った。そして、以下のような結果が得られた。

①剣道は好きですか？

とても好き	2名
好き	10名
どちらでもない	18名
嫌い	3名
とても嫌い	0名

② ①の理由

打ち合うことが楽しいから	8人
試合で1本とれたときが楽しいから	12人
防具じゃない所を打たれて痛いから	8人
暑いから嫌い	5人

このように剣道の授業に対してどちらかと言えば意欲的に取り組める生徒が多いが、半数は授業だからやっていると言える。また、理由にもあるように打ち合うことに楽しさを感じているが、痛いから嫌いという生徒もいる。だから、いかに剣道に対しての「痛い」というマイナスイメージを少なくし、生徒たちが「学んでよかった、またやってみたい」と感じられるような実践をしなければいけないかが分かる。「受けの美学」という言葉を使い、「打てることは相手がいるからできること」この意識を高め、相手のために受け合える集団にもなってほしい。また、できる喜びを味わわせることが必要にもなってくるので、剣道の単元を通して、集団としての弱さである「関わり方」を高め合えるようにしたい。

3 研究主題との関わり

<研究主題>

仲間と共に主体的に運動に取り組み、基礎的・基本的な技能の定着と活用を図る体育授業
～武道指導における有効な指導の在り方～

(1) めざす姿と生徒の意識に基づいた単元指導計画の作成

生徒の意識は、打ち合うことや試合で1本がとれるようになりたいと思っている生徒が半数である。1, 2年生では、基本技である面、胴、小手を身に付けること。しかけ技の小手から面、面から胴などを学習し、五角稽古などで打ち合うことを実践してきた。しかし、実際に審判をつけて勝敗を競い合ったりすることがほとんどできていないため、剣道における勝敗の喜びを感じることができていないのが現状である。しかたがって、3年生では、試合の中で学習してきた技を打ち合い、1本がとれる喜びを味わわせたいと考え、単元指導計画に毎時間審判をつけての試合やグループでの団体戦を計画した。

また、今までの学習では前に出る技ばかりなので、試合の幅を広げるために引き技を組み込み、前に出るばかりでなく下がりながら打つことを身に付けさせること。相手の打ち込みに「応える」というように応じ技である面抜き胴を学習させ、相手がしかけてきたときに防御するのではなく、しかけてきた時が打ち込む瞬間であることにも気づかせ、試合で生かせるようにしていきたいと考え計画した。

(2) 基礎的・基本的な技能の確実な定着を図る一単位時間の指導方法の工夫

本時学習する応じ技は、相手がしかけてきた瞬間が打ち込むタイミングであること理解してほしい。技術ポイント①として、「相手の剣先が上がった瞬間に竹刀を肩に担ぐ」ことで、打ち込むタイミングを掴ませる。また、相手が面を打ちにくるので、かわしながら前に踏み込んで胴を打つと、間合いが詰まりすぎて竹刀のもの打ちが当たらず有効打突になりにくいので、技術ポイント②では「真横に踏み込んで胴を打つ」ことでもの打ちが当たるようにする。最後に打ち込んだあとの残心を残すところでは、相手に背中を向けることは隙ができてしまうので、相手に背中を向けないように技術ポイント③では、「左回りで相手の方を向いて構える」ことで残心を残すようにする。技術ポイントを意識して活動できるようにする。

技術ポイントができているかを各班の小グループになって判定会を行い、お互いに技術ポイントを確認しながらアドバイスをさせることで、他者視線から見てアドバイスをしたり認め合ったりできる集団を目指したい。

試合では、団体戦だと一人当たりの運動量が減ってしまい、学習したことを試す場が少なくなるので、小グループに分かれて試合を行い、一人最低でも2試合はできるように設定した。また、試合での決まり手に点数制を用いることで、ただ待つだけになってしまわないように攻めた方が有利になるように差をつけた。

審判に紅白の旗を持たせ、自分たちで判断して勝負をさせることで、1本のタイミングや打つ瞬間をイメージさせるようにしたい。

4 単元指導計画

第3学年 男子「剣道」(全11時間)

時間	過程	学習内容		学習活動		教師の指導																		
		運動の側面	集団の側面	運動の側面	集団の側面	運動の側面	集団の側面																	
1	計画	<p>○単元の見通しをもち、グループの課題を設定することができる。</p> <p>○礼儀作法と基本動作を大切に、「気・剣・体」の一致した打突を試合の中で発揮することができる。</p> <p>●相手を尊重し、お互いにアドバイスし合い、技能を高め合える仲間になる。</p>		<p>○学習の進め方を理解し、イメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元目標を理解し、単元の見通しをもつ。 ・平等に試合を行うためのグループ編成をする(全4グループ)。 ・竹刀、防具(面、垂れ、胴)について確認する。 ・安全に活動するための約束を理解する。 ・活動場所、準備の仕方、ウォーミングアップの手順を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「気・剣・体」の一致について理解することができる。 ・試合の作法を確認し、相手を尊重する心が必要なことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す集団の具体的な姿を教師が位置付ける。 ・安全面に関して、具体的な剣道の事故例を提示し、安全に活動できるようにする。 																	
2	中間対抗戦	○基本打ち、しかけ技を踏み込んで、気合いとともに打ち込むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●リーダーの指示に従って素早く活動することができる。 ●安全面に気を配りながら活動し、危険な行為に対して注意することができる ●仲間の姿を観察し、具体的に教え合いをすることができる。 ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>技術ポイント</p> <p>○気・剣・体を一致させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、気合いの入った声を出す。 ・物打ちで正確に有効打突部位をとらえる。 ・すり足を使い、間合いを詰める。 ・残心を残し、隙をつくらない。 <p>○しかけ技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン・ターン」から「タン・タン」のように素早く打つ。 <p>○引き技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン・ガチ・グ・タン」のように相手とぶつかってから、竹刀を下げさせ面を打つ。 <p>○応じ技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方に出るのではなく真横に踏み込むようにして相手の打ち込みをかわしながら打ち込む。 <p>○審判法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効打突部位がもの打ちで打ち抜くことができている。 ・気・剣・体が揃って「一本」になる。 	<p>1時間の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①垂れ、胴をつける ②基礎練習 <ul style="list-style-type: none"> ・面打ち(細かく速い打ち方) ③全体計画会 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題確認 ・活動内容の提示 ④グループ計画会 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ⑤前半練習 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を達成するための練習を行い、成果と課題を見つける ⑥中間研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・成果の交流 ・課題の確認 ⑦後半練習 <ul style="list-style-type: none"> ・試合を行い、勝ち負けにこだわった試合をする。 ⑧グループ反省会 <ul style="list-style-type: none"> ・成果の確認 ⑨全体反省会 <ul style="list-style-type: none"> ・課題達成度の確認、本時の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の厳守 ・話を聞く態度 ・かけ足で行動 <p>基礎練習の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく振りかぶり、大きな声で力強く振る。 ・打ち手が気持ちよく打てるように受けの美学を忘れない。 ・物打ちで有効打突部位を打っているカトリオで確認する。 <p>試合時のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三審制で行う。 ・ポイント制で先に二本とった選手の勝利になる。 ・場外に出たら反則1になり、2回目で相手のポイントになる。 ・気剣体が一致していなければポイントにならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して毎時間試合の時間を設け、お互いに有効打突を狙って打てるように指導する。 ・竹刀の物打ちにテープを貼り、目で見て判断できるように指導する。 ・掛かり稽古で瞬時に判断して打ち込むイメージを掴ませ実践に近い感覚で打てるように指導する。 ・剣先の動きに応じた打突を一拍子で、手、足、声、残心までが一致できるように指導する。 ・審判では、平等な心で判断して判定するように指導する。 ・打つタイミングが分からない生徒には、相手の竹刀の位置によって打てる部位が変わることを視覚でわかるように掲示を使って指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを理解させるとともに、安全のためのルールを徹底させる。 ・具体的な声かけができない生徒やグループに技術ポイントを示す。 ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 ・うまくできない仲間に対して、親切に教えているグループやペアを認め、仲間の支えによってできるようになったことを価値付ける。 ・自分自身のプレーは客観的に見るができないので、グループの仲間が見て教えることが重要であることを理解させる。 ・ミスが続くなどして雰囲気が悪くなったとき、どのような声をかけるとよいか考えさせ、良い声かけを認める。 																
3		○有効打突部位を正確に打ち込むことができる。							<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>○引き技(引き面)を身に付け、接近した状態からでも有効打突を打ち込むことができる。</p>	<p>○引き技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン・ターン」から「タン・タン」のように素早く打つ。 	<p>③全体計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題確認 ・活動内容の提示 	<p>・打ち手が気持ちよく打てるように受けの美学を忘れない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 										
4		○引き技(引き面)を身に付け、接近した状態からでも有効打突を打ち込むことができる。													<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>○しかけ技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン・ターン」から「タン・タン」のように素早く打つ。 	<p>④グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 	<p>・物打ちで有効打突部位を打っているカトリオで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 					
5(本時)		○応じ技(面抜き胴)を身に付け、相手がしかけてきたときに、かわしながら踏み込んで打ち込むことができる。																		<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>○しかけ技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ターン・ターン」から「タン・タン」のように素早く打つ。 	<p>⑤前半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を達成するための練習を行い、成果と課題を見つける 	<p>・打ち手が気持ちよく打てるように受けの美学を忘れない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。
6		○しかけ技や引き技、応じ技を試合の中で思い切って打ち込むことができる。																						
7	○自分や仲間の課題を明確にして、その課題に合った練習を行い、相手の動きに応じて打ち込むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>○応じ技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方に出るのではなく真横に踏み込むようにして相手の打ち込みをかわしながら打ち込む。 	<p>⑦後半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合を行い、勝ち負けにこだわった試合をする。 	<p>・物打ちで有効打突部位を打っているカトリオで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 																		
8	○これまでの練習の成果を発揮してゲームができる。(リーグ戦)						<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>○審判法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効打突部位がもの打ちで打ち抜くことができている。 ・気・剣・体が揃って「一本」になる。 	<p>⑧グループ反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の確認 	<p>・物打ちで有効打突部位を打っているカトリオで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 													
9												○これまでの練習の成果を発揮してゲームができる。(リーグ戦)	<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>⑨全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題達成度の確認、本時の評価 	<p>・物打ちで有効打突部位を打っているカトリオで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい活動を展開しているグループを取り上げ、全体の場で認める。 								
10																	○これまでの練習の成果を発揮してゲームができる。(リーグ戦)	<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通しての姿を振り返り、自分やグループの仲間の良さや上達度合いを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ノートを振り返り、仲間の関わり合いについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の技能の伸びを多く認め、グループの勝利に結びついたことを価値付け、次の単元に方向付ける。 			
11	○目指す運動の姿、チームの姿になれたか、振り返ることができる。																					<ul style="list-style-type: none"> ●不安な点があるときはグループの仲間に見てもらい、アドバイスを求めることができる。 ●グループの仲間のいいプレーに対して称賛の声をかけることができ、失敗したときには励ましの言葉をかけることができる。 ●チームで進んで教え合いや励まし合いができ、活気ある活動ができる。 	<p>反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通しての姿を振り返り、自分やグループの仲間の良さや上達度合いを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ノートを振り返り、仲間の関わり合いについて話し合う。

5 本時の展開（本時の位置 5 / 11 時間）

○一本をとるために、相手が面をしかけてきたときに、真横にかわしながら踏み込んで胴を打ち込むことができる。

●お互いの姿を見合い、アドバイスし合える仲間になる。

		学習内容		学習活動		教師のはたらきかけ	
		運動の側面	集団の側面	運動の側面	集団の側面	運動の側面	集団の側面
計 画 会	始 業 前	グループごとに防具をつけ、基本練習（面、胴打ち）を行う。	リーダーの指示で、全員が大きな声をだし、揃って活動できる。（体さばきや打ち方の確認）	防具着用 基本練習（面、胴打ち） 整列・挨拶・服装確認・欠席確認	・各グループのリーダーが先頭に立ち仲間をリードする。	・体さばきや竹刀の振り方が上手にできていない生徒に個別に指導する。 ・一拍子で手、足、声、残心まで意識させる。	・グループがまとまって基本練習ができていないか確認する。
	計 画 会	一本をとるために、相手が面をしかけてきたときに、真横にかわしながら踏み込んで胴を打ち込むことができる。	お互いの姿を見合い、アドバイスし合える仲間になる。	〈生徒の意識〉 打ちにいくと防御されて、引いて打っても有効打突にならないことが多い。 「有効打突になるように打ちたい。」「相手の攻めを防ぐのではなくかわしたい」 ↓ 「攻撃を防御するだけでなく、相手の打ち込みにできるスキをついてかわして打ち込みにいこう」		・前時の試合での様子を聞く。 ・防ぐのではなく、かわすことの必要性を教師の示範で示す。 ・前方に踏み込むのではなく、真横に踏み込ませる意味を伝える。 （前方に踏み込むと、もの打ちがあたらないので有効打突にならない。） 【つまずく生徒への手立て】 ①打つタイミングがわからない生徒 ・相手の竹刀が上がった瞬間に真横に踏み込ませるように指導する。 ・竹刀を持たずに、手刀でイメージを掴ませる。 ②物打ちで打てない生徒 ・竹刀を振り下ろすときに手首を返し、先端をあてに行くイメージを掴ませる ・踏み込み位置が分かるように、調整する ・テープがあたる位置を確認してから練習を行う。	・前時に仲間の動きを助ける声かけができていた班を挙げ、本時目指す集団の姿を確認する。 ・各班を回りながら、仲間の動きを助けるかけ声を出し、わずかな伸びでも一緒に喜び、励ます。 「今」「はい」の声でタイミングを伝える姿がいいね。 「○○さんの声掛けで、みんながきびきび練習しているね。」 ・練習している生徒に注目し、必要に応じてアドバイスしたり賞賛や励ましの声をかけたりするよう指導する。 ・上手にできた瞬間を見逃さず、できるようになった生徒を認める。
	展 開	前 半 練 習	<p>【全体確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹刀を持たず、手刀でタイミングや足の運び方をイメージさせる。 <p>【グループ練習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一足一刀の間合いから合図と同時に踏み込んで打つことができる。 胴を打つ側は、前に踏み込むともの打ちで当てられないので、真横に踏み込んで胴を打つことができる。 <p>【判定会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術ポイントをグループで確認する。 <p>【中間交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくできている生徒の良さを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見合う視点を伝え合い、課題としている動きのポイントを教え合いながら練習できる。 一足一刀の間合いから、相手の動きだしに合わせ、真横に踏み込んでいるかをトリオで確認する。 一回の試技ごとにアドバイスをし合う。 面か胴かどちらが先に決まっているかを判断する（審判） 	<p>トリオ練習 「受けの美学を忘れない」</p> <p>見る人（合図を出す人）</p>  <p>胴打ち側 面打ち側</p> <p>見る人（合図を出す人）</p>  <p>面打ち側 （大きく踏み込んで打ち込む） 胴打ち側（真横に踏み込む）</p> <p>※どちらも残心まで意識させる。</p> <p>判定会</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、技術ポイントができていないかを確認する。 肩に担げている。（剣） 真横に踏み込んでいる。（体） 左回りで相手の方を見る（体） 気・剣・体ができている。（気） 	<p>＜見るポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> テープが貼ってある部分が打突部位にあたっているか確認する。 相手の動きに合わせ、真横に踏み込んで打つことができているか確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>「面抜き胴」の説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 相手の剣先が動いたら、竹刀を肩に担ぐ。 真横に踏み込んで打ち込む。 打ち終わった後、左回りで相手の方を見て、構える（残心） </div> <ul style="list-style-type: none"> 仲間の動きを見ながら声をかけてアドバイスしたり、一緒に動いたりすることが仲間の力となる。 	<p>①打つタイミングがわからない生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の竹刀が上がった瞬間に真横に踏み込ませるように指導する。 竹刀を持たずに、手刀でイメージを掴ませる。 <p>②物打ちで打てない生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹刀を振り下ろすときに手首を返し、先端をあてに行くイメージを掴ませる 踏み込み位置が分かるように、調整する テープがあたる位置を確認してから練習を行う。
展 開	後 半 練 習	<p>【試合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 試合 40 秒で行う。 グループを半分に分け、小グループ内で行う。 <p>【反省会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 試合の結果をもとに本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間に対してアドバイスや応援を行う。 良い打ち込みのときは拍手でたたえる。 審判の判定は「絶対」 仲間の頑張りを認め合うことができる。 	<p>《試合の決まり》</p> <ul style="list-style-type: none"> 面 3 点、面抜き胴 2 点、胴、小手 1 点として、点数で勝負する。 合計得点の多いチームが勝利とする 試合記録を書き、本時の振り返りに使用する。 審判は公平な立場で平等な判定をする。 試す場を増やすために、素早く交代し試合を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 素早く試合会場に移動し、順番を決めて挨拶ができるようにお互いに声かけをする。 仲間に対して打ち込むタイミングを「今」「打って」などで伝える。 仲間が打ち切ったあとは拍手でたたえる。 PO がゲーム記録に得点をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 礼法ができていない生徒にはやり直しをさせる。 相手の動きをよく見るために構えを崩さず、正中線をとらえた動きを心がけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗を恐れず、積極的に挑戦できる雰囲気をつくるため、生徒のアドバイスの仕方を観察し、指導する。
評 価	反 省 会	<p>【全体会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題達成度について振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす仲間になれたかどうか事実をもとに振り返ることができる。 	<p>【グループ反省会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の達成ぶりを評価し、次時の目標へとつなげる。 仲間の良い姿を発表し、認め合う。 「相手が動いた時に防御するのではなく、攻めることで有効打突になった。」 <p>【全体反省会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の評価を聞き、次時の目標や見通しを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能の向上や個の変容を振り返ることができるか確認する。 次時の課題が明確になるように振り返りをさせる。 	<p>◆評価基準◆ 相手の動きに応じて、相手がしかけてきた時に打ち込むことができる（技）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題を意識して取り組んでいたグループ・個人を紹介し、価値づける。 仲間のおかげで頑張れた、伸びたという事実を大切に扱う。